

エゾノミツモトソウ

Potentilla norvegica

バラ科



エゾノミツモトソウ

名前の由来

北海道に分布するミツモトソウ。ミツモトソウは「水源草」で、湿ったところに多く見られることから名付けられた。漢字名：蝦夷水源(元)草

形態的特徴

高さ20～60cmで、全体に長軟毛が生える。花茎は太くて硬く、上部でまばらに分岐する。葉は三出複葉で3片に分かれるが、茎下部では頂小葉が更に分裂して5片の小葉に分かれ、小葉は楕円形で縁に鋸歯がある。葉柄の基部には大きな托葉がある。花は黄色で径1cm内外、5枚の花弁があり、花弁よりはるかに大きく毛が密生するがく片に取り囲まれている。花は葉腋からのびる花柄の先に1つずつつく。

生育環境・分布

道端や草地の日当たりが良くやや湿った場所に生育する。
分布：国外分布は、ヨーロッパ原産で北アメリカ、ニュージーランドなどに広く帰化している。
国内分布は、北海道と本州(長野県菅原)。
北海道内分布は、桧山以外の全道で確認されている。
十勝地方では、道端や草地の日当たりが良くやや湿った場所に普通に見られる。

生活史

開花時期：6～9月。開花までの年数：1～2年草。
寿命：1～2年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■古くから北海道で知られており、ここから長野県などに「国内帰化」したと考えられてきたが、北海道のものも牧草の導入に伴って帰化したという。

類似種と見分け方：ミツモトソウ。

ミツモトソウの葉の先端はとがるが、エゾノミツモトソウの葉は長楕円形で先は丸く、とがらない。



エゾノミツモトソウ



エゾノミツモトソウ



類似種のミツモトソウ。
葉先がとがる

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期				■								

参考文献

「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001
「北海道帰化植物便覧 2000年版」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2000

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001
「花のおもしろフィールド図鑑 夏」ピッキオ 実業之日本社 2001
「原色日本帰化植物図鑑」長田武正 保育社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ